

## 互いに支えある地域社会

活動先：愛光園 知多地域生活障害者生活支援センター らいふ  
クラス：松下 典子 先生

私は、このサービスラーニングを通して「地域」という存在がとても重要であることを学んだ。サービスラーニングを受講し始めた頃は、「NPO」って何だろう。何のために「NPO」って存在するのだろうか、また「NPO」を説明しなさいと言っても説明できなかった。

4月や5月にNPO法人の代表の方にお話を聞くことができたり、NPO法人の施設に実際に行き施設の雰囲気や思い、サービスなどの現状を自分の肌で感じる事ができた。介護保険で対応外のサービスを行ったり、「地域の人たちに少しでも役に立ちたい」と思っている職員さんの気持ち、地域の交流の場を提供をしていることを知った。地域の人たちにとって「NPO」の存在は地域にとってかけがえのないものだと強く感じた。また信頼関係にも着目した。職員と利用者さんの間には信頼関係があるからこそ様々な悩みを言うことができたり、きめ細かなサービスを提供できると感じた。これもNPOの存在の良さの一つと考える。NPOは良いところもたくさんあるが問題点も同時にあることを知った。人件費やお金の問題である。やはり良いサービスを提供するにはお金がかかってしまう。しかしNPO法人は、昔あった民家を改装して施設にしたり、使えるものは使うなど様々な工夫をして利用者さんに対してサービスを行っている。大事なはお金ではなく利用者さんを第一に考え工夫して質の良いサービスを提供したり、支援することである。NPOは利用者さんのニーズを把握し少しでもその思いに答えようとする気持ちがあり、これがNPOの本来の姿なのだと実感した。

私の活動先は知的障害児の施設に行き、障害を持つ子どもたちと接していくにつれて親と職員、子どもたちと職員の関係がとても大切だと実感した。先ほども述べましたが、信頼関係があるからこそこの関係が成り立つことができるのだと学んだ。障害の子どもを持つ親は子育てに戸惑いを持っている。その中でこの「らいふ」は重要な役割を果たしていると感じた。子育ての悩みの相談、親の休息や緊急時の時に「らいふ」にいけるなど障害を持つ家族にとって「らいふ」は無くてはならない存在に気付いた。これこそ一人ひとりのニーズにこたえた生活支援である。地域のなかで助け合って生活することで、家族の負担の軽減や地域交流にも繋がる。また施設が成り立っているのは職員だけでなく他の施設や専門の方、地域の人たちのつながる支援があるからである。人は人と助け合っていくことで地域の生活ができていると考える。

昔は、近所の人たちと助け合って生活してきたが、今は核家族化や高齢社会など昔と異なった社会環境になってしまった。この変化に伴って地域環境も変化したのである。お互いに助け合って生きていくことを近年忘れ去られている気がした。私たち人間は一人では生きていくことはできない。誰もが地域や家族に支えあいながら生きていくことができる。核家族化、高齢社会に突入している今の時代こそ、互いに助け合うことが最も重要である

と考える。NPO のもう一つの捕らえ方として「互いに助け合う」ことを意味していると考えられる。共に支えあい、共に生きていくことが今の時代に必要なことだと考える。

私はこのサービスラーニングを通して地域や人と人とのかかわりの大切さ NPO の存在など、今の時代には必要なことは“何か”を学ぶことができた。これは授業の教科書では学べないことである。実際に現場に行くことで初めて自分の目で発見し考えることができるのである。自分から積極的に行動し目標をたて実践し、問題点をあげ、また考えていく。これをくり返すことで NPO の存在や必要性が理解できると考える。そして一人で考えていくのではなく仲間同士意見を言い合えることもこのサービスラーニングで学んだ。一人で考えていくより仲間の意見も聞き言い合えることで自分の考えている視野が広がり様々な視点から物事を考えることができるからである。仲間同士で活動していく時には、意見が食い違う時もある。しかしこの壁をとり超えることで一歩自分が成長できると感じる。人は十人十色である。一人ひとり違って当たり前である。お互いに理解しあうことで次の行動に進むことができるのは社会に行ってもおなじことである。この場合はコミュニケーション能力が必要である。活動の時でも感じたが、利用者さんや職員さんとはコミュニケーションをとるのは大事だと実感した。特に私は障害児とのコミュニケーションが難しかったが、一人ひとりの目線に立ち、ペースに合わせようとする気持ちを持つことで少しずつコミュニケーションが取れるようになってきた。コミュニケーションで大事なものは、相手の目線やペースに合わせようとする気持ちが必要だと感じた。

私は、このサービスラーニングに受講して本当に良かったと強く思った。人と人との繋がりが、互いに助け合う心、地域という暮らしの場が大切な社会、今の時代に欠かせないものを学ぶことができた。NPO は地域ニーズに向き合い地域をよりよくしていこうと改善する人々の思いやりから始まった。私は、この知多半島の多くの NPO 法人の活動を全国に広めていくことでもっと地域と人との関係が密接に関われると感じた。今の時代だからこそ、NPO の活動を広げ人と人との繋がりを深めていくことが重要だと考える。近年では人と人との関わりが薄れていると感じる。人と人、地域と人、これはこれからの重要な課題だと私は考える。そして人々が生まれ育った地域でお互いに助け合いながら楽しく元気に人生を送れることができる地域づくりめざして学習の課題としていきたい。